

「21世紀への対話」

1 枚目／一通のエアメール （6 枚目の絵の裏に貼る）

インドネシアのワヒド 前大統領は 2002 年に 池田先生と 会談した 折、次のように 語りました。「実は、20 年前に 対談集 を 読み、会える 日を 夢見てきました」と。

その対談集とは、池田先生とイギリスの 歴史学者アーノルド・J・トインビー博士との対談集『二十一世紀への対話』でした。この対談集は、30 以上の 言語に 翻訳・出版され、世界の 識者や 国家指導者をはじめ、世界中の 人々に 愛読されています。

対談のきっかけは、トインビー博士から 届いた、一通のエアメールでした。そこには「人類の 直面する 基本的な 諸問題について、是非とも 語り 合いたい」と 認められていました。

2 枚目／アーノルド・J・トインビー博士 （1 枚目の絵の裏に貼る）

二十世紀最大の 歴史家と 呼ばれる、アーノルド・J・トインビー博士。著書『歴史の研究』に 代表される博士の 歴史観は、「文明」という 大きな視点から 世界史を 考察する、独創的なもので、その後の 歴史研究に大きな 影響 を 与えました。博士の 革新的な 業績 に対して 激しい批判がおこるなかで、博士は 徹して研究を 重ね、信念を 貫いてきました。

このような博士が池田先生との 対談を 強く望んだ理由は 二つありました。一つは、現代文明の 危機を 乗り越える 高等宗教 として、仏教 に 強い関心を 抱いていたことでした。もう一つは、家族や 友人、さらには 最愛の 息子までもが 若くして 亡くなったことから、「生と 死」の 問題を 深く語りあえる相手を 探していたのです。

3 枚目／メイフラワータムの 出会い

（2 枚目の絵の裏に貼る）

1972 年の 花薫る 5 月。ロンドンで池田先生とトインビー博士の初めての対話が行われました。当時、博士は 83 歳。池田先生は 44 歳でした。

池田先生は対話の冒頭「私 はこれまで、仏法者として、『生命の 尊厳とは何か』『人間とは何か』といった 根源的なものを、常に探求してまいりました」と語りました。それに 対しトインビー博士は「まさに、私もその 点を話したかったのです。長い間、この機会を待っていました。やりましょう！ 21 世紀のために語り継ぎましょう！」と 熱く語りました。

この対話は翌年 5 月にも行われ、のべ 10 日間、合計 40 時間にも 及びました。

4 枚目／多岐にわたる 対談

（3 枚目の絵の裏に貼る）

対談のテーマは、「人生と 社会」「政治と 世界」「哲学と 宗教」という、三つの 柱を 軸として 多岐にわたりました。それは「戦争の 歴史を 断ち切るには」、「欲望をコントロールするには」、「“人々の 真の 幸福”を 実現する道とは」、といった 全人類的な 課題でした。

トインビー博士は語りました。「現代の 脅威は、人間一人ひとりの 心の中の 革命的な 変革によってのみ、取り除くことができる」と。

それはまさに、池田先生が 先頭に 立って 推し進めてきた、創価学会の 人間革命運動そのものを 言いあらわしたといえる 言葉でした。

5枚目／対話をさらに 広げていってください （4枚目の絵の裏に貼る）

博士は対談のおわりに、池田先生に遺言ともいうべき思いを託しました。

「人類全体を 結束させていくためにも、若いあなたは、このような対話をさらに広げていってください。

ロシア人とも、アメリカ人とも、中国人とも……」と。

対談の2年後の1975年3月。トインビー博士と池田先生の対談集『二十一世紀への対話』の、日本語版が 発行されました。それを見届けるように、トインビー博士は86歳の生涯を閉じられたのです。

池田先生は、対談以降、冷戦の時代にあって米中ソ3国を相次いで訪問し 各国のリーダーと対話を重ねました。また、トインビー博士から紹介された世界的な学識者と会い、世界に平和友好の“対話の渦”を巻き起こしたのです。

6枚目／対話への挑戦 （5枚目の絵の裏に貼る）

対談の最終日、ある首脳会談のニュースを見ながら、トインビー博士は語りました。

「政治家同士の対談に比べ、私たちの対談は地味かもしれませんが、私たちの語らひは、後世の人類のためのものです。このような対話こそが、永遠の平和の道をつくるのです」と。

対談以来、池田先生は走りに走り、世界中の人々と“人類の平和”にむけた対話を繰り返し 広げてこられました。それは一人一人と“真実の友好”を結ぶ、誠実の対話でした。

池田先生は言われています。

『対話を！ 未来のために対話を！』それが、私がトインビー博士から託された生涯の使命だ。ゆえに、私は、今日も対話を続ける。対話こそ、私の生命そのものであるからだ！」

決意など